



第15期第2回千代田区生涯学習推進委員会議 概要報告

9月19日、第2回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。この会議では、委員の皆さまが2年間の任期のなかで、第15期テーマ『千代田区における住民交流の促進に生涯学習が果たす役割』について議論を進め、区長に提言を行ってまいります。今回は、会長による基調講演、千代田区の現状と生涯学習について、各委員による意見交換を行いました。

以下、概要をお伝えいたします。



新委員自己紹介

【安田委員】*

千代田区文化芸術協会副理事長の安田と申します。生涯学習推進委員はもう何年も、1期ごとに関わらせていただき、協会の活動も活性化されるよう励んでいます。よろしくお願いいたします。

【村木委員】

千代田区青少年委員会からまいりました村木です。九段生涯学習館や中高一貫校などで茶道講師をしており、この会議は自分の生活も関わる委員会だと思えます。よろしくお願いいたします。

佐藤文化スポーツ担当部長より挨拶

千代田区政を進める上で、地域コミュニティの希薄化は1つの大きな課題です。もう少し大きな視点では、リカレント教育・リスキング・社会人の学び直し等は大変重要で、施策を推進していかなければならないと考えています。意思を持った幅広い区民の方が、どのように活動していくとよいか、学んでいくとよいか、15期委員の皆様いろいろなご意見を頂ければと思います。2年間どうぞよろしくお願いいたします。

議題1) 今期の進めかたについて

全体のスケジュールは全9回を予定し進めてまいります。

- 令和6年度1～4回…千代田区の現状、課題
- 中間的なまとめ
- 令和7年度5～8回…具体的な施策、提言書について
- 骨子のまとめ
- 第9回…………… 区長への提言



議題2) 前田会長基調講演 概要

「千代田区における世代間交流の促進に資する生涯学習の役割 ー長期居住者としての高齢者と短期居住者としての若年者に焦点を当ててー」

昭和24年に社会教育法が制定されましたがこの間、非常に社会情勢というのが大きく変化してきています。少子化、超高齢化社会、地域コミュニティ崩壊の問題。DX、国際化(グローバル化)の進展、推進。これを受け第12期中央教育審議会生涯学習分科会が設置され、ここでの議論を踏まえ、千代田区生涯学習推進委員会議15期の提言に向けてどう生かしていくとよいか。内容の論点整理、千代田区の現状と課題についてご講演いただきました。

資料:第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理(概要)



4つの柱

- ①社会人のリカレント教育
- ②共生社会実現に向けた障害者・外国人等の社会教育・生涯学習推進
- ③社会教育人材の養成
- ④デジタル社会への対応

地域コミュニティ基盤を支える今後の社会教育のありかた
社会情勢の変化を踏まえた現行法令のありかた
社会教育が果たすべき役割 若者を含む担い手育成



千代田区の取り組み

- 千代田区キャンパスコンソ:大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学、専修大学とコンソーシアムを組み区民が学ぶ機会を提供。ちよだ生涯学習カレッジ。
- 外国人(多文化共生から多文化多民族共生へ)ちよだ日本語カフェ。民族語などの言語を教え、学ぶ機会は定着していない。

第15期テーマに向けた課題として

- ①共生社会の実現に向け、社会的包摂への対応。障害者・外国人等を含めた世代間・多文化・多民族間の交流を通して地域コミュニティの維持・活性化を千代田区としてどう進めていくか。
- ②地域コミュニティの維持・活性化を視野に入れた社会教育人材の養成・講習に向けて、社会教育・生涯学習施設の提供を含めて、千代田区としてどのような役割が担えるか。
- ③<<長期居住者>>高齢者を<<短期居住者>>若者のメンターや伴走者として、千代田区の世代間交流を進める生涯学習推進の担い手として活用できないか。



第1回会議における委員からの質問

事務局より回答

① 区民の定住意向、移動人口との関係性について知りたい

令和5年度千代田区世論調査



令和3年度千代田区人口ビジョン



令和6年度千代田区住宅白書



居住形態別には、一戸建ての持ち家>ビル内の自宅>分譲マンション>一戸建ての借家>賃貸マンションの順に「永住するつもり」の回答は減少。短期（10年未満）居住者（14%）中期（30年未満）居住者33%、長期居住者が61%定住意向あり。18~29歳の永住意向は男性2.4%、女性2%。短期居住者の転入転出は『仕事都合』が多い。

② 町会の課題、転入者の地域参加などデータを提供してほしい

町会加入率5割弱、年齢層、居住年数に比例して高くなる。地域情報の提供、共有、お祭りなど行事参加の働きかけ、曜日や時間帯の工夫、さまざまな人が関わることのできるテーマ設定が求められる。

地域コミュニティ施策の一元的な推進に向けた検討における区民アンケート調査（平成25年）



③ 九段生涯学習館が行っている事業は？

教養講座、区民自主企画講座、人材バンク活用講座、ジュニアカレッジ、家庭教育学級、まち魅力探訪、異世代交流事業、自然体験村、子ども自然教室、ちよだ生涯学習カレッジなど。受講料補助「バウチャー制度」

九段生涯学習館ホームページ



【委員による意見交換】

・区の子育て支援員をしている。児童館の講座は平日午前中が多く、参加するのは母親が多い。土日や時間帯の工夫で父親や働く母親が参加しやすくなるのではないかな。

・千代田区の世代間交流について深く考えたことがなかったが、気づいたら自分が『世代間交流』をしていた。

・神田祭や盆踊り、地場を盛り上げる行事が千代田区には結構ある。土地土地で使いやすい施設の紹介、地域特有のものを行政サービスで提供し、生涯学習にひもつけて考えると今後の定着率につながるのではないかな。

・お祭りも、永年携わるお年寄りがよく知っていて、若者が教えてもらいつつスキルを身につけていく感じで進んでいる。何十年も続いている高齢者と若者の人間関係は自然に形成され、いかに維持していくかが重要。

・参加する・しないは個人の自由ではあるが、やっている側が楽しそうなのが一番よいのかと思う。

・自分の町会は青年部員が25名いるが地元で生まれ育ったのは私ひとり。多くがマンション居住、後から参加してきた方たち。住むからには地域の行事は何があるか気になりつつ過ごしている人は多いのではないかな。

・町会からアプローチがある地域をうらやましく感じる。若い世代が結構移住している傾向から、働く子育て世代、若い人をキャッチしていくとよいのではないかな。

・QRコードなどITを使って若い人の声を拾っていくことが大事ではないかな。

・「住民交流の推進に生涯学習が果たす役割」、大切なテーマであり、さまざまなキーワードを関連性も含めて丁寧に整理していく必要がある

・若年層が弱者として捉えられる大きな傾向があるなかで、千代田区では地域によっては若者が元気で積極的な地区もある。高齢者と若年層の関係をテーマに沿ってどのように柱立てるかが課題ではないかな。

「分散型自立組織」で生涯学習を実現する未来

麻生 徹

私が所属する昌平評議会コミュニティスクール運営委員会では、今年も8月に「昌平音楽祭」を開催させていただきました。コロナ禍の中止もありましたが27回目の開催となり、今回は出演者を含め400名近くが参加されました。

出演者は小学生から平均年齢80歳超えのグループまで、老若男女が集うイベントになります。10代から90代まで参加できるという点でも、まさに生涯学習を体現するような行事なのかもしれません。

私個人としては、地域活動も行いながら会社ではIT部門でシステム開発を行っております。そんな関係で最新技術にも興味があり、注目しているキーワードがありますので紹介いたします。

それはDAO(分散型自立組織)というものになります。仮想通貨にも使われているブロックチェーンという技術で信頼性を保ちながら(改ざんされないようにしながら)他者をつながりを持つような仕組みが作れるようになるようです。

地域振興という形で取り組んでいる地方自治体もすでにあるようですし、同じような学習を行いたい人たちでつながりの強いコミュニティが作れたら、生涯学習にもつながっていくのではないのでしょうか。

とはいえDAOは、技術も取り組みもまだまだ先は長く、20年くらい先に実用的になるような話だとは思っております。その中でも、強固なコミュニティを新たなテクノロジーで構築できるような未来を楽しみにしております。



「生涯学習はいつからでも」

高畠 純子

千代田区には知的障害がある人のレクリエーションとしての日曜青年教室があります。私の娘も18歳の時から参加しています。さまざまなプログラムを考えていただき充実した時間を過ごしています。

私は50代後半から学習館でフラメンコのサークルに入りました。きっかけはお友達の誘いで“脳トレになる”という言葉に惹かれて始めました。

現在60代前半ですが、フリルがたくさんついたスカートとフラメンコシューズをはき、ステップをふみ体を動かし汗を流しています。

今年の3月には九段フェスにも参加することができました。サークルを通してお友達もふえ、レッスン後のおしゃべりも楽しみです。

生涯学習は年齢や障害のあるなしにかかわらず、いつになっても少しの勇気で新しい世界が広がります。心と体のためにも、これからも続けていきたいと思っております。